

現在のように各国から委員がでて雲の分類を決めている以上雲の分類は部分的な改訂によって整頓される以外は根本的な改正は望みうべくもない。雲の分類は地球のあらゆる区域にあらわれる雲を分類するためのものであるから類を定義するには根本的な相違をはっきりあげることが必要である。しかし雲の外観があまりにも変化するものであるために必ず難点が生じてくる。長い年月を経て現在にいたった雲の分類ではあるがその完成にはまだ

暫く時日が必要と思われる。

6. 結び

簡単に雲の分類の歴史を国際雲図帳に沿ってさかのぼると以上ようである。もち論日本における分類史は別の流れがあるわけだがここにはふれなかった。

日本の雲の名称はまた別の興味があって、古い文献から調べることもできると思うがそれはまだ調べてない。何かの機会に調べられたらと考えている。

気象の英語(6)

6. Forecast と forecasting

forecast は動詞にも名詞にも使われる。record 等と同様に動詞のときはアクセントが後の音節にあり、名詞のときは前の音節にある。さて、「予報」に対する最も普通の英語は forecast (名) であるが、これの派出語である forecasting も使われる。forecast (名) と forecasting とはどう使い分けられているのだろうか。

Forecast (名) の意味は C. O. D. によると

forecast (名) = foresight, prudence, (rare); conjectural estimate of something future, esp. of coming weather.

である。forecasting は forecast (動) から出たもので、「予報すること」を意味する。

日本語の「予報」には、2通りの意味があつて、「気象庁の予報によれば」という時は、「予報文」「予報結果」を主として指すわけであるが、「予報法」というときの「予報」は予報をするという動作を指す。この予報結果の方の時には、forecast (名) が使われ、予報する動作、の場合には主に forecasting が使われる。したがって、「気象庁の予報によれば」は“According to the forecast of the Meteorological Agency,” (云い方としてはこの他に、“The Meteorological Agency predicted (said or announced) that……”等が考えられるが) であり、「予報法」は“The method of forecasting”である。

7. 南北か北南か?

日本語では「南北」というが、英語では北をさきに云う。「東西」は日英同じで、東をさきにする。したがって、“Xは東西30km, 南北20kmある”は“X is 30 kilometers from east to west, and 20 from north to south”である。

また日本語では、「東北」地方というが、「東北」、「東南」、「西北」、「西南」は、英語では北、南を前

有住直介

に云う。したがって、

“Xは東京の東北50kmにある”は“X is situated 50 kilometers to the northeast of Tokyo”となる。

このように日英で語順の違うものは、この他に、飲食=eating and drinking, 飲食物=food and drink, 晴雨にかかわらず=rain or shine, 左右=right and left, 貧富=rich or poor, など、たくさんある。身心, 心身, は国語ではいずれも使われるが、英語でも、“mind and body”と“body and soul”の2通りがあるのは面白い。ただし、“body and mind,” “soul and body”とは云わないらしい。

8. “east” (副) は「東から」か「東へ」か?

一般には、「東へ」である。たとえば、

The river flows east.

は、「川は東へ流れる」, であるが、風について云う時に限り、「東から」となる。たとえば、

The wind blows east.

は、「風は東から吹く」, となる。形容詞のときも同様で、east wind は東風である。したがって、風についてう場合に、「東へ」といいなければ、eastwards (副詞), eastward (形, 副) を使わなければならない。north, south, west についても同様である。

また、東風について一言すると、東風(こち)には日本では、「東風吹かば匂おこせよ」で見られるように春風の代表であつて「春来る」を連想させるものであるが、イギリスでは、冬の「猛烈な寒風」を代表する。たとえば、

It whistled just over my cap like an east wind. (C. Doyle)

関東でも、春の東風は、天気図でいう「北東気流」の時の多いので、冷いのが普通であろう。歳時記にも、「東風は春風より冷い感じである」とある。北東気流の時は、風が強い時もあるが、事実「強東風(つよごち)」という言葉がある。